

大正十三年刑控第 五七六 號

判決

本籍 住所 全羅南道長興郡

長平 面 猪山里

農業 曹 性 寬

五十一年

五十一年
德永

本籍 住所 同上

農業 曹 秉 厚

五十一年
德永

四十四年

本籍住所同上

農業

白晃欽

四十一年

二十三年
德永昌美

本籍住所同上

農業

曹吉煥

二十九年

二十三年
德永昌美

本籍住所同上

三十二年
後永昌
農辰業

曹公水

二十六年

右駮擾公務執行妨害被告事件
三付大正十二年八月三十日光州地方
法院木浦支廳ノ言渡シタル有罪ノ
判決ニ對シ被告等ヨリ控訴ヲ申立テ
先ニ依リ當法院ハ朝鮮總督府檢
事堀勘治郎干其審理判決スル

以下左ノ如シ

主 文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

理 由

被告青住寛ノ叔母ニシテ原審審共同
被告金元甲ノ實母タル青住順心ハ大正
十二年六月四日ノ夜全羅南道長興
郡長平面猪山里神原桑松所有ノ

桑田ニ於テ若干ノ桑葉ヲ竊取シ之ヲ
 裳ニ入レタル儘腦溢血ニ因リ頓死シタ
 ルモノナル處被告庸性寛寛自見欽及
 金元甲ニ於テハ霄順心ハ病死ニヤラスシ
 テ又桑田ノ所有者神原桑松ニ於テ鏡
 ヲ以テ毆打シ死ニ致シタルモノト誤信シ他
 ノ人々ト風評ヲ為シ居リタル折柄同月
 七日長興敬言察察署ヨリ醫内師及敬言

警察官が現場に來り死体、檢案系ヲ為
ストノゴトヲ聞キ被告曹秉魯曹吉
煥曹公水ト共謀ノ上右醫師及警察
察官ノ到着ニ先キ同日午前九時
頃他、原審共同被告曹秉敏外十
二名及其他、里民數十名ヲ猪山里射
場ニ呼集メタル上同人等ニ對シ曹順
心、變死ニタルハ神原桑松力銃ヲ以テ

改訂シタルニ因ルモノナルコト相違ナシ然レト
モ神原桑松ハ内地人ナレハ敬言祭示官ニ
於テ或ハ病死シタルモノヲ如ク取計フヤモ
知レズ本目長興ヨリ醫師及敬言祭示官
力來リ死体ヲ檢案スル筈ナルカ若シ
彼等ニ於テ病死ナリト断定シタルキハ
其ノ醫師及敬言祭示官ヲ引止メ多象
之ニ押寄セ暴威ヲ以テ其醫師ヲシ

テ順心ノ死因ヲ他殺ナリト言明セシム
ヘク各自棍棒又ハスモツブ等ヲ携フヘ附
近ノ山ニ登リ見張ヲ為シ居リ自分等
力手ヲ拵ケ又ハ大聲耳ヲ發シテ合圍ヲ
為シハ各自ハ之ニ應シ直ニ馳ケ來リテ
彼等ノ歸路ヲ塞キ豫定ノ行動ニ出
ツヘキ旨ヲ説示シテ之ヲ煽動シ此處ニ
叅集シタル右曹兼敏等外數十名

ノ里民ハ之ヲ賛同シ各自棍棒及スコップ等
ヲ携乃ハ附近ノ山其他ニ於テ右醫師及ヒ
警察官ノ來着ヲ待チ居リタル處同
午前十一時頃醫師田口太郎道巡查
部長河村辰一及道巡查岡富太郎
安部重信カ現場ニ來リ曹順心ノ死体
ヲ檢視シ病死ナリト断定シ立歸ラン
トスルヤ被告曹勝寛及金元甲ハ右

河村巡查部長ヲ引止メ順心ハ病死ニ
アラサルコト疑ナキニ付解剖ノ上再度
ノ檢視アリタキ旨申出テ先ヨリ河村
巡查ハ之ヲ諾シ田口醫師ニ其旨ヲ告ケ
同醫師斷ヲシラ之カ解剖ヲ為サレメ先ニ
何等打撲傷ノ痕跡ナク腦溢血ニ因リ
死セシタルモノナルコト疑ナキモ此時既
其附近ニ約二三十名ノ人数集合シ

居リ其ノ形執力不穩ナルヲ認メ解剖ノ
 結果ハ之ヲ發表セシテ其儘歸途ニ
 就キタル處右金元甲及被苦膚性寛
 白冕欽ハ其ノ歸路ヲ立塞キ田口醫
 師、自轉車ヲ押入且其ノ被服ヲ摺ニ
 テ何故ニ解剖ノ結果ヲ我等ニ告ケサル
 ヤ直ニ之ヲ言明シタレト迫リ一面被苦
 膚性寛及金元甲ハ大聲ヲ發シテ

附近ノ山ニ於テ見張ヲ為シ居リタル里
民ノ來集ヲ來ルヤ此ノ瞬間ニ於テ附
近ニ待構ヘ居リタル被告曹秉德曹
君煥曹公水ハ多象ヲ指揮シツツ率
先シテ他ノ原審共同被告等及其他
数十名ノ里民ト共ニ田口監酒師ヲ取圍ニ
其死因ノ發表ヲ迫リ或ハ同監酒師ノ兩
手ヲ捕ヘ或ハ其ノ頸部其他ヲ毆打シ

タル者之ヲ目撃セル岡及安部ノ兩巡
査ハ職務上被告等及其他群衆ニ
對シ事理ヲ説明シ速ニ解散スルキコトヲ
命ジタルモ被告等ハ之ヲ肯セサルノコトヲ
ス却テ被告曹性寛曹秉魚曹公水
ハ群衆ニ對シ右兩巡査ニ暴行ヲ加フ
ルキ旨ヲ指揮シ而シテ被告曹公水
ハ一部ノ群衆ト共ニ右兩巡査ニ組付キ

或ハ拳ヲ以テ毆打シ或ハ足ヲ以テ蹴且被
告曹秉倉曹吉煥ハ他教名ト協力シ
テ同巡查ノ佩釧及釧帶ヲ奪取スル等
ノ暴行ヲ為シ以テ同時ニ右兩巡查ノ職
務執行ヲ妨害シタリ茲ニ於テ田口醫
師ハ河村巡查部長ト相談ノ上之力鎮撫
ノ手段トシテ曹順心ノ死因ハ解剖ノ結果
他殺ノ疑アル旨ヲ告ケタル處被告白

胡學

冕欽、同、監、酒、師、ニ、對、シ、然、ラ、ハ、其、上、司、ノ、証、
 明、書、ヲ、書、キ、以、テ、追、リ、尚、被、告、南、無、性、
 實、ハ、神、原、采、松、カ、雷、順、心、ヲ、毆、殺、シ、タ、ル、
 事、實、ノ、証、據、ト、為、サ、ン、カ、為、メ、金、元、甲、及、
 任、私、巨、ト、共、ニ、多、数、ノ、群、衆、ヲ、指、揮、シ、テ、
 右、猪、山、里、ナ、ル、松、岡、席、市、方、ニ、押、寄、セ、同、
 人、ニ、對、シ、被、^神原、采、松、カ、同、人、ニ、預、ケ、在、リ、タ、
 ル、獵、銃、ノ、提、出、ヲ、強、要、シ、他、ノ、多、数、教、人、ハ、

宅外に於て暴威ヲ示シテ松岡席市に
リ該獵銃ヲ提供セシメ前後約三時
間ニ亘リ騒擾ヲ為シタルモノナリ
以上ノ事ヲ實ハ

曹性寬

道巡查ノ被告ニ對スル第一回訊問調
書中同人ノ供述トシテ大正十二年六
月七日長茂平面猪山里ニ鹵酒師及敬言
察官カ出張シ來リ變死着ノ死体

檢視ヲ為シタル際私ハ死者ノ親族ナル
 関係ヲ死者ノ側ニテ立會ヒ居リ他
 里民約四十名ハ山ノ上ニ集合シテ見
 張ヲ為シ居リタリ而シテ死者ノ檢
 視方濟ミタル後醫師及教言寮長
 ハ私等ニ無言ノ儘歸ラントシタルヲ
 私ハ他ノ里民約二十名ト一組ト為リ
 醫師ノ自轉車ヲ取押ヘ且其着

衣ヲ摺ニ其死因ヲ語ニタル上ニテ歸レ
ト云ヒ騷キエテタリ其内ニ残ノ一組約二
十名ハ巡査ニ押寄セテ同巡査ニ對シ
暴行ヲ為シ居リタル旨ノ記載
道警部補ノ被告書性實ニ對スル第
二回訊問調書中同人ノ供述トシテ私
金元甲ノ母ハ神奈桑松ノ為ニ銃殺セ
レタルモノト誤信ニ金元甲白見欽、

曹秉魯曾由日吉煥曹公水卜共謀之在
六名之ヲ死体檢視、當日里民約三十
名ヲ猪山里射場ニ集メ同里民等ニ
對シ金元甲、母ハ確ニ神原力銃殺シタ
ルニ相違ナシ係ニ神原ハ内地人タル關係
上或ハ病死シタル様ニ為スヤモ知ラス本
田長次興ヲリ醫師師及警官力檢視
ニ來ル竹舌ニ付若シ他殺ノ疑ナキモノト

診断シタルトキハ醫師及警察官ヲ
引止メ多数ノ里民カ集合シテ騒キ立
テ且暴行ヲ為シテ神原カ殺シタルコト
ニ為サシムヘシ依テ里民ハ各自棍棒又
ハスコツプ等ヲ推乃ヘ此ノ附近ノ山ニ登
リテ威嚇スハク而シテ我等カ手ヲ舉
ケ又ハ大聲ヲ發スレハ直ニ降り來リテ
暴行ヲ始ム様ニ指揮セタリ右ノ外

別

當日私八因口醫百師ノ上衣ヲ搦エテ他
 殺十ルヲトテ詰レト迫リ右邊手ニテ三面程
 同醫百師ノ類ヲ毆打シ尚多數ノ者ヲ指揮
 之テ同醫百師ノ暴行ヲ為サシメ且之ヲ制止
 シタル岡及安部兩巡查ニモ暴行スヘキコ
 ト及松岡方ヲ神原ノ鏡ヲ奪取リ之往
 ク様命ニタリ即チ私及金元甲白晃欽
 曹秉曹曹吉煥曹公水ハ右騷擾

於ケル首魁者ニシテ私等、指揮ノ下ニ
至トシテ暴行ヲ為シタル者ハ曹秉敏
周鍾宣金成荃曹章煥曹正植曹
豐煥曹文化曹性鎮曹鳳水白文一
宣容柱文教植兼中煥任弘巨等
尤皆ノ記載

同上ノ被害者曹秉魯曹と對ケル竹笋ニ面訊
問調書中同人ノ供述トシテ私ハ金元甲

母ノ死体檢視アリタル當日相被告四名
 及金元甲ト相談ノ上里民約三十名ヲ猪
 山屋ノ射場ト云フ處ニ集メ右死体檢視
 爲メ來ルルキ段商師及敬言察官ニ對シ暴
 行ヲ爲スヘキトテ計畫シタリ而シテ私其
 日田口段商師カ死体ノ檢視ヲ終リ其ノ
 死因ニ付テハ何トモ申サスニテ歸ラントシタ
 ルヲ怒リ同段商師ノ歸路ヲ立塞キ暴

別序

行ヲ為シ居リタル處岡及安部、兩巡查
力之ヲ制止シテ田口殿四郎ヲ歸ラシメシト
シタル事、今度ハ其巡査ノ方ニ取付キ暴
行スル様多數者ニ命スルト共ニ岡巡査
ノ劔及劔帶ヲ奪取リ尚松岡席市方
ニ多數ノ者ヲ押寄セシメテ神原ノ銃ヲ
奪取ラシメ且多數ノ者ト共ニ死体ヲ神
原方ニ運ヒ付ケタル等ノ行動ヲ為シタ

別序

リ其時敬言察官ハ右變死者ノ死因ニ
 付テハ後ヨリ詳ニシク語レテ聞カスヘキニ付キ
 騒カスニ解散セヨト叫ビ居リタルモ其制止ニ
 應セス右ノ如ク騒立テタル者ノ記載
 同上ノ被告曹自吉煥ニ対スル第一二回訊
 問調書中同人ノ供述トシテ私ハ相被告
 四名及金元甲ト共ニ首魁ト爲リ大正
 十二年六月七日猪山里射場ニ多數

ノ里民ヲ集メ本日長興ヨリ醫師ヲ
来リ變死^ニ死者ノ死体ヲ檢視シテ他殺^ニ
アラスト云ヒタル時ハ其^ニ醫師^ト暴行ヲ
加ヘ騷擾ヲ為スヘキ旨ヲ煽動シテ而
シテ私ハ當日先ツ田口^ニ醫師ヲ取圍ヒ
歸レサル様ニシテ變死者ノ死因ヲ云ヒ
兵^ト迫リ暴行ヲ為シ居リテ其際
内地人^ニ巡査^ニ二名^ハ其^ニ處^ニ來リ寄リ掛

一序別

リ居リタル多数ヲ取難サントシタルヨリ其
 多寡ノ一部ハ其二人ノ巡查ニ取付キタ
 ル一人ノ巡查力嚇シテ為メ抜釘ニタルヨリ
 十名位ノ者ハ其巡查ノ手胸及腰ニ取
 付キ其釘及釘世帯ヲ集取リ先旨ノ
 記載

同上ノ被告曹公水ニ対スル等三回訊問
 調書中同人ノ供述トシテ私ハ金元甲

曹性寬見白文圭曹秉魯日等ト共謀
三田口殿西師ヲ歸レ其様ニ其自轉
車ヲ押ヘ居リ尚同殿西師ノ胸ノ邊ヲ
拳ヲ以テ五六回程毆付ケタリ其時関
及安部ノ兩巡查力之ヲ制止シタルヲ
今度ハ同巡查等ヲ拳ニテ毆リ暴行
ヲ為シタリ其レヨリ又多衆ヲ指揮シ
テ松岡ノ家ヲ銃ヲ奪取ラシメ死体

一子別

刺字

ヲ連搬セシメタリ其動機ハ金元甲ノ母
 ハ確ニ神原ト銃殺セラレタルニ違ナシト
 噂アリテ區長白文圭及由目性質等トモの右檢
 視ニ當日里民ヲ集メ若シ醫齒師カ其ノ
 死因ヲ他殺ニアラスト診断ニタルトキハ
 醫齒師及警言祭儀ヲ妨害カテ他殺ナルコト
 ナリ証明セシメタルトモ計畫ニ置キタル為
 ナル上同ノ記載

同上ノ被告自文主事自見免欽ニ對スル
訊問調書中同人ノ供述トシテ私ハ猪
山里ノ區長ナリ大正十二年六月七日
長興ヲ醫術師及敬言察官力猪山里
ニ來リ變死者死体ノ解剖ヲ為シ免
力私ハ膚性寛ト相談ニ醫術師ノ來ル
迄ニ里民全部ヲ集メ村ニ變死者有ル
ル方其ハ確ニ神官力銃殺ニシタルニ相違

初字

ナキニ付若シ殿國師力回逆ヒタルコトヲ診
 断シタルトキハ此旨ニテ殿國師及教言察察臣
 夫取國之騷擾多為スヘキコトヲ指揮シ
 知リ然ルニ殿國師ハ解割ノ結果ニ付何上ニ
 言ハスレテ立歸ラントシタルヲ以テ膏性
 寛及庸金元甲ハ其殿國師ノ前ニ立塞
 リ自轉車以押ヘテ死因ヲ言ヒタルコト
 云ヒ最末行ニ為シ庸在歟及庸乘應可ハ

岡地查ノ劔ヲ奪取リ尚書陸寛及金
元甲ハ松岡市南方ニ往キ神原ノ銃ヲ
奪取リタリ而シテ又私ハタタクノ里民ヲ
指揮シテ殿前師ヲ歸セサル様ニ為シ且
自ラ岡地前師ニ對シ他殺ナリトシ證明書
ヲ書キテ呈シト迫リ居リタリ即チ私及
相被告陸寛守波ノ金元甲ハ五名ハ首魁
者ト為リ他ノ者ヲ煽動シテ騷擾セシ

初五字

大分県志ノ事ニ於テ其ノ記載

道巡査ノ被害金元用ニ對スル訛聞
 調書中同ノ供述トシテ 曾順心ノ私
 ノ実母ナリ大正十二年六月七日醫
 師及警察官力来リ曾順心ノ死體ノ
 檢視ヲ為シタル際多數ノ里民力集合
 之ニ方居リタル力醫師ハ檢視ヲ了ス後ニ
 居ル私等ニ無言ノ儘歸ラントシ先ヨ

リ約二十名、皇民力駈ケ付ケ同醫師ノ
自轉車ヤ服等ヲ押ヘテ何故モ正直モ
話シタル上ニテ往カヌカト大聲ヲ立テタ
ルヨリ巡查力之ヲ制止シタル様ナリレカ惟
力カ直ニ巡查ノ刀ヲ奪取リタリ而シテ曹
性實見ハ私ニ對シ曹順心ハ神原力殺シタ
ルモノナレハ松岡方ニ預ケ凡銃ヲ取リテ
敬言察察署ニ持往ケハ宜キニ付左様ニセ

ヲト申シタル事ヲ私及任弘臣ハ曹性寛
 トモ右松岡方ニ押駈ケ往キ同人ニ對シ
 其交渉ヲ為シ其他ノ多數ノ者ハ宛々
 表ニテ見張ヲ為シ居リタル處松岡ハ忍
 ミク爲リ何トモ言ハスミテ其銃ヲ出シテ
 吳レタル事ヲ曹性寛ハ之ヲ敬言察照有
 持行キタル旨ノ記載
 同上ノ被告曹秉敏ニ對スル訊問調書

中同人ノ供述トシテ大正十二年六月七日
區長白晝先歎力許島明ヲシテ私等里
民約四十名ヲ呼集シ今日邑内ヨリ變死
者檢視ノ為メ醫師カ來ル竹舌ナルカ萬
一不公平ノ事トナシ爲メ場合比自ラ其醫
師ヲ取押ヘテ其理由ヲ確ムル爲メ皆自ラ呼
集メタル上旨語シタルニ依リ私等里民ハ之
ヲ塚後ニ附近ノ山ニ登リ様子ヲ見テ居

リタル處毆商師及巡查ハ檢視ヲ終リ
 里民ハ何トモ語サズシテ歸ル様ノ態度
 ナリシヲ變死者ノ子供金元甲及膚
 性寛ハ毆商師ノ自轉車ヲ取押ヘ居リ
 皆來リ理由ヲ聞キ且レト申シタルヲ大
 執方ノ者ハ大聲ヲ擧ケ毆商師ノ方ニ押
 駈ケ其毆商師ノ自轉車及被服ヲ取
 押ヘ且巡查ニ取付キ其巡查ノ刀ヲ奪

取ル等ノ大騷ヲ為シタル旨ノ供述記
載

道敬言部補、被告津田章早歿ニ對スル
筈ニ同訊問調書中同人ノ供述トシ
テ私ハ曹性寛見等ノ煽動ニ依リ多數ノ
者ト協力ニテ變死者ノ死体檢視ノ
為メ来リタル岡田查ヲ毆打シタルコトヤ
リ實ハ右變死者ハ内地人神原カ殺シタ

加序

タルニ違ナシトノ噂アリテ騷擾ノ當目白
 區長及膏性寛力私等里民ヲ集メテ
 本區長興ヲ醫醫師及巡查力來リ檢
 視ヲ為スニ當リ若シ怪^怪シキ診斷ヲ為
 シタルトキ八里民一同ニテ其醫醫師及巡
 査等ニ暴行ヲ為スヘシトノ言ナリシヨ
 リ之ニ同意シ在、如キ行動ヲ為シタル旨
 ノ記載

別字

司上、安部重信ニ対スル筈一圓訊問調
書^{聴取}中同人ノ供述トシテ私ハ道巡查ニ
テ大正十二年六月七日河村巡查部
長一行ノ後ヲ追ヒ猪山里ニ出張シ變
死者ノ檢視ヲ為シテ而シテ檢視ヲ終
リ右河村部長ノ一行ト共ニ歸路ニ就キ
先處變死者ノ長男金元甲及其ノ
親族青性寛等ハ解^離ヲ為シテ

別字

予私等、歸路ヲ塞キ自轉車ヲ捕ヘ
 テ難サルヲ止ムナク解剖ヲ為シ其ノ
 結果ハ發表セサルヲ得策ト思ヒ金元
 甲ニ對シ解剖ノ結果ハ駐在所ヨリ知ラス
 へキ旨ヲ云殘シテ全員カ引揚ケタルニ
 其者等ハ再ヒ私等ノ前後左右ヲ立
 塞キ解剖ノ結果ヲ告クヘシト迫リ里
 民數十名ハ各自棍棒及スコップ等

ヲ推カヘテ八方ヨリ駐付ケ私等ノ周
圍ヲ取圍ニ暴行ヲ為サントスル状況
尤ヨリ私等ハ事理ヲ説明シ解散ヲ
命シタルモ聞ハレス尚々多衆押寄せ来
リ私等ニ取付キ四肢ヲ拘束シ衣類
ヲ擲モ首ヲ締メ拳ヲ以テ毆打スル
筈ノ暴行ヲ為シテ其時私ハ數十
回モ毆倒レ周巡查ノ如キハ劔ヲ取テ之ヲ

初等

予及服ヲ脱キ去ラレタリ其レ故田口醫
 師ハ早計ヲ廻ラシテ檢案ノ結果他殺
 セシタル様ナル旨申シタル處幾分靜
 マリタリ其レ迄ハ幾回トナク解散ヲ命ジ
 且懇諭シタルモ一向應セサリシ旨記
 載

同上ノ安部重信ニ対スル第二回聴取書
 中同人ノ供述トシテ騷擾ノ當日一番暴

行ヲ為シタル者ハ曹性寛金元甲曹公
水曹秉曹及區長白文圭等ナリ即
チ曹公水田口毆商師ノ自轉車ヲ捕ヘテ
拳ニテ毆打シ私及岡巡査ヲ拳ニテ毆
リ是ニテ蹴リ又白文圭ハ白晃欽ノコトニ
シテ岡人ハ騷擾突發ノ際ヲ最後迄
里民ヲ煽動シ指揮シテ私等ニ暴行セ
シメ又自ラ田口毆商師ノ上衣ヲ擱エテ寺

實他殺ニ違ナキ旨、証明書ヲ書ケト強
 請ニ尚多衆ヲ指揮シテ岡巡査ノ銃
 ヲ奪取ラシメ、松岡方ヨリ銃ヲ奪取
 リ來ラシムル等ノ行動ヲ為シ、而シ
 テ金元甲冑性寬冑素色目ハ何レモ
 右白區長ト同様ノ行動ヲ為シ居リタ
 ル旨、記載

道巡査、岡田太郎ニ對スル第一回訊問

調書中同人ノ供述トシテ私ハ道巡査ナ
ルカ大正十二年六月七日猪山甲ニ往
キ變^ニ死者曹順心ノ死体解剖ヲ為シテ
歸途ニ就キタル處金元甲曹性寛(調
書ニ性^ニ権トアルモ誤記ト認ム)カ醫師由
口ノ方ニ寄リ付キ暴^ニ暴^ニ出テントシ里
民二百餘ハ助聲耳ヲ舉ケツ、同醫師
ヲ取卷キ自轉車ヲ取押ヘ通行ヲ阻

初季

止スルヲモテハス
 毆打ヲ為シ居ルヲ私等
 ハ職務上之ヲ制止シタルニ曹公水調
 書賈公誅トアルモ誤記ト認ム崔已云外
 八九名ハ一舉ニ私ヲ包圍シ棍棒又ハ鉄ヲ
 以テ打テ掛リ或ハ頸ヲ絞ル等愈危
 機ニ迫リ居リタルヨリ職務上遂行上止
 ムナク救弔シタル處多數者ヲ為ラ
 身体ノ自由ヲ失ハシ該弔ヲ彼等ニ奪

取ろルルノ止ムナキニ至リタル旨ノ記載
河村辰三対テ豫審調書中同人ノ
供述トシテ私ハ道巡査トシテ長平警
察官駐在所ニ勤務セリ大正十二年
六月五日午前七時頃神原釜松力駐
在所ニ來リ其所有ノ桑田ニ曹順成
死亡シ居ル旨申告ニタルヨリ私ハ其旨
ヲ本署ニ即報シ現場ニ往キ見タルニ桑

田ノ中央ニ仰向ニ斃死シ居リ其傍ノ竹籠
 及同人ノ着衣ノ引マニ桑葉ヲ頭髮
 ハ少シモ亂セス卷キ居リタリ而シテ同月
 七日正午十二時頃又私ハ田口醫局師及
 岡巡査等ト共ニ現場ニ往キ田口醫局
 師ハ死体ノ檢案ヲ為シタル上歸ラント
 ニタル處金元甲及曹性寬ハ私ヲ引
 止メ曹順心ハ鉄砲ニ毆打セラレテ死

亡ニタルモノナルニ付解剖ニテ以テ其レト類リ
ニ申ニタルヨリ私ハ田口隘商師ニ其者有テ
告ケ再ニ現場ニ度リ金元甲膏性寛
外一名ノ立會ニテ解剖ヲ為シタリ其ノ
時其周圍ニハ二三十名ノ人カ集リ居リ
金元甲ハ其者有等ニ對シテ大聲耳ニテ自
分ト行動ヲ共ニシテ其レト申シ居リタリ
而シテ田口隘商師ハ騒動ノ起ラシメトテ

慮り死因ヲ告ケサル儘現場ヲ引揚ケ
松岡方附近迄來リタル處同人等ハ
同醫師及私ノ自轉車ヲ押ヘ死因ヲ
告ケヨト力勸有迫シタルモ同醫師ハ後日
書面ヲ以テ敬言祭署ニ報告スル旨ヲ
答ヘタルニ金元甲等ハ何故死因ヲ云ハ
サレ方ト云ヒ同醫師ノ咽喉ヲ絞リ暴行
ヲ加ヘタル事同巡查等力以テ制止セシ

トシタル處同人等共同調査等ニ暴
行ヲ加ヘテ其際同調査ハ刃ヲ奪
取ラビタル旨ノ記載

田口三郎ニ對スル豫審調書中同人ノ
供述トシテ私ハ長興警察署者ノ依託
ニ依リテ大正十二年六月七日長興郡
長平面猪山里ノ桑田ニ於テ死者膏
順心ノ死体ヲ解剖シ檢案ニシタリ初メ

刺字

衣服ヲ脱シ身体ヲ一々檢視シタルモ何等異状ヲキマリ現場ヲ引揚ケ歸途ニ就キタル處河村巡查部長ヨリ死体者ノ親族等ノ依頼ナリトノコトニテ解剖ヲ為シタルヨリ再ヒ現場ニ戻リ解剖ヲ為シタルモノナルカ解剖ノ結果腦溢血ニ因リ死亡シタルモノト断定シタリ而シテ其現場ノ附近六三三番

者力各棒及鋏等ヲ持テテ立テ居リ
令ニ騷動ヲ起ス様ノ氣勢力ナリニ故
解剖ノ結果ヲ發表セサリシ處右親
族ノ者ハ死因ヲ告ヒケヨト火葬ヲ致ス
ルヤ俄ニ周圍ヨリ約二百名位ノ人力集
リ來リ死因ヲ告ヒケ呉レヨト騷キ立テ私
ノ両手ヲ捕ミ洋服ヲ捉ヘ咽喉ヲ絞付ケ
石ヤ手ニテ私ノ脊骨及頸部ヲ多數ニテ

毆打之又一方其暴行ヲ制止セントシタ
 ル巡査ニモ暴行ヲ加ヘタルヨリ私ハ河村
 部長ト相談シ上其鎮撫ノ手段トシテ
 其代表者ニ對シ毆打セリシテ死亡シタル
 モナリ旨申シタル處同人ハ左ラハ契約書
 ナ書キ呈シト申シタルカ私ハ左様ナルコトハ
 出来ヌト申シ辛シク其場ヲ逃ケテ
 歸宅セシタル旨ノ記載

神原兼松と対する豫審調書中同人ノ
供述トシテ大正十二年六月五日ノ早朝
兼中燵カ来リ私所有ノ猪山里烏谷ノ
桑田二人カ寝テ居リ言葉ヲ掛ケタルモ
返事ナキニ付見テ是レト申シタルヨリ私モ
不審ニ思ヒ同人ト共ニ現場ニ往キ見テ
ル處ニ桑田ノ中央部ニ金元甲、母書順
心カ仰向ニ倒レ居リ其左足ノ左側ニハ

スクリアリ其中及着衣、弁マニス桑葉
 マハレタル儘死亡シ居リタリ私、其旨
 マ年、刑七時頃、長平、教言、察、官、駐在所
 届出ラタル旨ノ記載
 當公廷ニ於ケル被者、膚性、寛、膚、順、心
 ハ私ノ父ノ妹ナル旨ノ供述
 マ綜合シテ之ヲ認定ス
 法ニ照スル被者、等ノ騷擾ノ所為ハ刑

法算百六條第一號ニ公務執行妨害
所為刑法算九十五條ニ該當スル處在
二個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモ
ノナルヲ以テ刑法算五十四條算一項
前段算十條ニ依リ重キ騷擾罪ノ刑
中懲役刑ヲ選擇シ其所定刑期範
圍内ニ於テ被告庸性寛白見先欵ヲ各懲
役一年ニ處スルヲ被告庸兼庸日庸去

煥庸公水ハ犯情惘諒スヘキモノアルヲ以テ
 刑法廿九六十六條廿九七十一條廿九六十八
 條ニ依リ酌量減輕ヲ為シタル刑期終
 因内ニ於テ同被告三名ヲ各懲役八月ニ
 處ス押収物件ハ沒收ニ係ラサルヲ以テ刑
 事訴訟法第百二十二條ニ依リ差出人ニ
 還付スヘク公訴ニ訟費用ハ刑事訴訟法
 第百一十一條第項刑事訴訟費用法

第七條^ニ則リ被告等^ノ及原審共同被
告庸素^ノ敏外十四名連帶^ニ肩担^セシム
ヘキモノトス

然レハ存^ト同趣旨^ニ出^テタル原判決^ハ相當
^ニテ被告等^ノ控訴^ハ理由^ナシ仍^テ刑事
訴訟法^第二百六十一條^第一項^ニ則リ主
文^ノ如^ク判決^ス

大正十二年十月三十日

命覆審法附則

二部

裁判長朝鮮總督府判事

前澤政美

曹性寬
白見欽
曹官煥

朝鮮總督府判事

木村

朝鮮總督府判事

李恩益

朝鮮總督府判事

德永

